

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成22年 4月17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771100845		
法人名	社会福祉法人 大恵会		
事業所名	グループホームいなば		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府岸和田市稲葉町1066		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成22年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で、穏やかに暮らせるように援助する。季節ごとの行事などを、大切にし、ひとつひとつの行事を職員と一っしょに、楽しんでもらえるように、毎月の担当を決めて、レクリエーションを行うようにしている。少しでも多く、笑ってもらい、いつまでも歩いて出かけられるように、敷地内の庭にたくさんある、季節の草木を楽しみながら、ゆっくりと歩く時間を提供できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員は、「利用者一人ひとりの意思を尊重する」「利用者の能力をできるだけ維持していくための支援」「ゆとりをもったケア」を心掛けながら、利用者に寄り添い、ともに過ごし支えあう関係を築いている。
そして、管理者は、職員の運営に対する意見が出やすいように、毎月の会議の場だけではなく、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。
事業所の建物は緑溢れる環境の中にあり、施設内につくられた遊歩道には季節折々の花々や果物等が栽培されており、利用者の絶好の散歩コースとなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示している	同一敷地内にある法人全体の理念を基に、事業所独自の基本方針を作成している。そして職員が話し合い、年度のテーマを「さあ歩こう。風とともに」と、目標を「毎日少しでも歩いてもらう。」としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接した民家が無く、日常的な交流はない	法人全体で地区自治会に加入している。地区の農家の畑を借りて野菜を栽培したり、盆踊りに参加している。小学校・幼稚園合同運動会に招待してもらったり、中学校の職業体験学習を受け入れている。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の他部署が行っているの で、当事業所では、特に行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事内容や利用者の様子について報告を行っている	2ヶ月毎に開催し、家族等、老人会、民生委員、市担当者が参加している。事業所の活動内容や利用者の生活状況などを報告している。参加者からの意見・要望などを出していただけるように促しているがまだ具体的な意見は出ていない。	今後は更に地域からの参加者を募ることや、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な会議になることが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	法人内の他部署が行っているの で、当事業所では、行っていない	同一敷地内にある法人本部担当者とともに市担当者との連携を取っている。法人が地域で地域包括支援センター事業とコミュニティソーシャルワーク事業である、いきいきネット事業を受託している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職員が常に見ることのできる場所に、置いている	身体拘束をしないケアについてのマニュアルを作成し、新入オリエンテーションでは説明しているが、現任職員研修では行っていない。玄関の自動ドアは内側から外に出る時はスイッチ式になっており、利用者が自由に出ることは出来ない。	身体拘束をしないケアについての研修を毎年実施し、「鍵をかけない暮らし」について職員で話し合いを行うを期待する。

7	<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修会に参加		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	研修会に参加		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	行っている		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進介護を2ヶ月に1回行っている	利用者の担当職員を決めて、日頃から馴染みの関係を作っている。家族等の来訪時に必ず話しかけ、些細な事でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。年1回家族会を開催している。意見箱を設置している。	利用者・家族等からの意見や要望についての記録が無い。今後は職員で情報を共有して、新たなケアプランや改善につなげていけるように取り組むことが望まれる。
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	毎月、事業所内会議を行っている	管理者は、職員の運営に対する意見が出やすいように毎月の会議の場だけではなく、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>			
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	定期的な研修を行っている		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>定期的に外部研修に参加している</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>部屋担当の職員を決めて、安心できる関係づくりに努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>何度も連絡を取り合うことで、ひとつひとつ不安や要望をすくえるように努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービスを必要としている場合は、情報の提供に努める</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事参加の中で、それぞれに役割を持ってもらえるよう努める</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>年に2回家族会を開いている</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居住場所が変わることで、関係が途切れがちである	利用者がこれまでによく出かけていたお寺への参詣や墓参りの支援を行っている。墓参りの際には、利用者の希望で自宅の近隣へ立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加の中で、それぞれに役割を持ってもらえるよう努める		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談に努める		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	笑顔が見られる援助を心がけている	利用者の担当職員は、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難なケースで、散歩時に花を見たときの表情で利用者の花に対する気持ちをくみ取ることなど、本人本位の支援に取り組んでいる。しかし新たに把握できた情報を記録できていない。	日々の関りの中から把握した利用者の新しい情報は記録し、職員間で共有し、ケアに活かしていくことが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所の際に、本人や家族に、聞き取りをする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所の際に、本人や家族に、聞き取りをする		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月に1度作成し、必要があれば随時変更をしている</p>	<p>6ヶ月毎または必要に応じて見直し、現状に即した計画を作成している。利用者ごとに担当者が決められ連絡ノートや申し送りノートで情報を共有している。</p>	<p>介護計画の見直しを行う際は事前に家族等へカンファレンスへの参加の呼びかけや意見の聴取を行う事が望まれる。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を個別に記録している</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>法人として多機能なサービスを提供できるよう、様々なサービス事業所を運営している</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入所しても今までのかかりつけ医を受診できるように、家族と調整している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所しても今までのかかりつけ医を受診できるように、家族と調整している</p>	<p>利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診することができるように支援している。その際には、基本的には家族の同行としているが、無理な場合は職員が対応し、結果を家族に報告している。歯科の往診体制はある。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>			

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時も、定期的に、家族や病院関係者に声をかけ、情報収集を怠らないようにしている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、本人や家族に、聞き取りをする	入居時に家族等に、重度化し医療行為が必要となればケアを継続できないことを説明している。状態の変化に応じて早い段階から利用者・家族等と話し合いを行っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での避難訓練を行っている。	事業所単独ではないが、法人全体の定期的な防災・避難訓練に参加している。地域の連携を得る体制作りには至っていない。	運営推進会議等を活用し、事業所として、地域と災害時の連携について検討することが望まれる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「○○さん」と名前を呼んで、声かけをするように、指導している	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーの保護を重視し、言葉掛けや対応には馴れ合いにならないように職員間でも注意しあっている。個人記録等はカウンター内の鍵の掛かる場所に保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食を選択制にして、パンやおじやの好きな方を、毎朝、選んでもらっている		

38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課を決めることで、メリハリのある生活を提供している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪を利用して、パーマや毛染めの希望にも添うことができる		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に野菜を洗ったり、芋の皮むきなど、できることは一緒にしている	誕生日には新聞の折込チラシなどを活用し利用者が希望する献立を伺うようにしている。毎日の献立は日勤の職員が作成しているが、カロリー計算は行っていない。食材は近くのスーパーからの配達で賄っている。職員は利用者と同じ食事をしながらさりげなく見守っている。利用者は食後の後片付けなどを職員と一緒にしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量を記録している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分では、十分に洗えない方には、職員が援助している		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間も随時、トイレ誘導をしている	リハビリパンツやパットを使用している利用者もいるが、随時トイレ誘導をすることによりほとんどの利用者は排泄の自立ができています。	

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、食事前に体操をしている		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	定期的な、時間を決めて入浴をしている	入浴は午後1時30分から3時30分ぐらいの間に週3回行っている。現在同性介助は行っていないが、希望があれば支援できる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、必要に応じて、居室や居間で横になって休んでもらうことができる		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があったときは、職員全員が把握できるように、その都度申し送るようにしている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事参加の中で、役割りをもてるように援助している		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望に添うのは難しいが、家族と調整を行うように努める	花や緑に囲まれ自然に触れることのできる環境の中、気候の良い時期には週に2～3回散歩に出かけている。畑で野菜の植え付けや収穫も楽しんでいる。喫茶店に出かけたり、リサイクル公園や近隣の寺院などにも出かけている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持つことの大切さよりも、あとで預かる時のリスクを考え、行っていない</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>代わりに電話をしたり、代筆をしたり、必要に応じて行う</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間などの空調の設定は、一日に何度も調整をして、快適な温度を保つようにしている</p>	<p>玄関を入ると広い廊下の両側は洗面所、浴室、トイレがあり、居間へと続いている。玄関には、ベンチを設置しゆっくりと寛げるようになっている。明るく解放的な居間からは中庭が見える。利用者の希望を聞きテレビの位置を変えるなど暮らし易い工夫をしている。2階の居室に上がる階段からの景色は季節を感じ取れる一枚の絵画の様である。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間でも、座れる場所を、複数つくるようにしている</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室へは、本人の使っていた物を、なるべく持ってきて頂くようお願いしている</p>	<p>居室には仏壇、人形、整理ダンス、ベッド、アルバム、好きな歌手のポスター、カレンダーなど馴染みの品々を持ち込み居心地よく過ごせる空間となっている。転倒などのリスクに配慮の必要な利用者の居室には、ベッド脇にセンサーマットを設置している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段の昇降ができる間は、階段を使ってもらう</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない